

二〇二四年 秋号 海禅寺新聞



Vol.43

『海禅寺新聞』第43号

ものには表と裏があつて、
どんな不幸なものに出会つても、
どこかに灯りが見えるものです。
もちろん幸せが、

ずつと続くものでもないですから、
何か自分で行き詰まった時に、

その行き詰まった場所だけ見ないで、
ちよつと後ろ側から見てみるという…

そのゆとりさえあれば、
そんな人生捨てたもんじやないな、
と思つていきます。

ですから、

どうぞ物事を面白く受け取つて、

お互いに愉快に生きていきましょう。

あんまり頑張らないで、
でもへこたれないで、ね。

女優 樹木 希林

日々私たちは、自分の目の前に起こつた出来事を、無意識のうちに自分の価値判断で色付けし、自分に取り込んでいます。仏教では、その「自分の価値判断の働き」に気付いて、それに振り回されないように生きていきましようよ！と提案しています。とはいえ、自分の意識のクセといのは、なかなかクセモノで、分かっているつもりでも自分の認識を支配しがちです。そんな

ことを思う時に、この樹木希林さんのメッセージは、なんだか爽やかな秋風のように感じられ、私たちの日常における大切なことを教えてくれているようです。

あんなに暑かった夏も移ろい、季節はすっかり秋らしくなってきました。どんな風に生きてても、人生も同様に移ろつていきます。毎日、喜怒哀楽ありますが、できるだけ愉快にありたいものですね。

『生きる力 vol.118』送付

おなじみ真言宗智山派で発行しております冊子「生きる力 vol.118」をお届けします。ぜひご一読ください。

裏表紙には、令和2年に新築オープンした総本山の宿坊「智積院会館」のご案内が掲載されています。実は今、楽天トラベルの「京都府の人気宿坊ランキング」で、この智積院会館は第1位の評価をいただいています。サイトには、

- ・僧侶による名勝庭園「離宮好みの庭」と長谷川等伯絵画の案内あり。
- ・朝のお勤めは京都随一の迫力！

と紹介がされています。最近では人気のためになかなか予約が取りづらい日もあるようですが、車椅子のまま利用できる介護対応の客室もあります。京都旅行の折は、ぜひご宿泊を検討されてみてはいかがでしょうか？

秋彼岸会 中日法要のご案内

恒例の秋彼岸会法要を海禅寺本堂にてお勤めいたします。どうぞお出かけください。(申込不要)

日程：令和6年9月22日(日・祝日)
時間：受付 午前10時～
法要 午前10時30分～

※お彼岸中日の午前中は、本堂前で焼香していただけるよう準備をしています。
※法要終了後にお時間の許す方は、会議室でご歓談していただけますよう粗菓茶もご準備いたします。

※彼岸会法要の供養塔婆をご希望の方は、19日(火)夕刻までに電話またはファックスで、寺にお申し込みください。

◎供養塔婆料一基 3000円

※境内墓地をお持ちの方は、お寺においでにならなくとも供養塔婆を墓前に手向けさせていただけます。ご希望の方は、供養塔婆料を添えてお申し出下さい。

電話：0268-22-2972
Fax：0268-26-114



ホームページリニューアル

ご案内が遅くなつてしまいましたが、お付き合ひのある業者さんに依頼し、海禅寺のホームページがリニューアルしました。各ページの表示方法や内容を見直していただきました。一度ぜひご覧ください。

(スマホからも閲覧できます)
具体的には、年間を通じてお問い合わせを多くいただく「人形供養会」と「聖天祭」について、ご覧になる方にとってよりわかりやすくなるよう工夫いたしました。一方で最近お問い合わせ、およびご相談をいただくことが増えてきた「永代供養堂」については、今のところ、あえて詳細な情報を掲載していません。それは、このお堂が完成してから、どこから聞きつけたのか、永代供養の紹介業者から、そのあつせん業を請け負いたいという営業電話が多かかってくるようになったことに起因してい

ます。勿論そうしたお誘いは全てお断りしています。このお堂は、営利を目的として建立したわけではありません。海禅寺にご縁のある必要とする方が、自然な流れの中でたどり着いていただくことが一番よいと考えています。永代供養堂「還源」にこめた想いを大切にすべく、その情報公開方法については検討を重ねている最中です。いずれにしても新しくなったホームページをご覧いただき、ご感想をいただければ幸いです。

第40回 人形供養会

毎年11月の勤労感謝の日に行っている人形供養会を今年も勤修いたします。今年も集まったお人形さんをすべてお飾りした上で、修験道の秘法・柴燈護摩供によつて懇ろに供養をお勤めします。合わせて檀信徒の皆さまの、家内安全と心願成就も御祈念いたします。

お陰様で今年も人形供養を志してから40年の節目を迎えます。これはひとえに檀信徒の皆様はじめ関係各位の皆様が、この行事をお支えくださったおかげです。記念の年にあたる今回は、例年とは違う内容を加えたいと考えております。詳細につきましては、地元紙等で告知予定ですが、供養するお人形がなくともご参拝いただけます。どうぞ皆様のお越しをお待ちしております。

日程：令和6年11月23日(土・祝日)
時間：「受付」午前9時半～
「雅楽奉納演奏」午前10時40分～
「人形供養法要」午前11時～



保育者たちにエールを！

先日、上田女子短期大学のオープンキャンパス内で行われたイベントに、ゲストスピーカーとしてご指名をいただき、参加してきました。

ここ数年、同学校の保育士資格または幼稚園教諭免許を取得できる**幼児教育学科**への入学者が激減していることをご存知でしょうか？今現在の在校生数は、最盛期の4分の1を下回り、ついに学校の経営維持の観点から、来年度から男女共学の学校へ転換することになりました。実は同様の出来事は今、日本全国で起こっています。これはつまり、幼児教育者を志す学生が著しく減少していることを意味しています。中には廃校する学校まで出てきました。

こうした状況に対して、上田女子短期大学が現役高校生を対象にして開催したのが今回のイベントでした。「子どもが持つ育ちの力、そして保育の素晴らしさを発信したい！」「この学校の学びの質を更に充実させ、全国から志ある



学生が集まる場にしたい！」という教職員さんたちの熱意。私はこの思いに深く共感します。この世に生まれる誰もが、乳幼児期を経て人生の歩みを始めます。そしてこの時期に育まれる人間としての核が、その人の人生の根っことなっていきます。しかし、乳幼児期の子ども達を支える保育者が社会からいなくなってしまうと、この国はいつたいていどうなってしまうのでしょうか。

私は海禅寺に併設している「認定こども園 芙蓉園」という幼児教育・保育の現場を、副園長という立場でお預かりしています。イベントでは日々感じている事、子どもたちの育ちの今、そして現場で懸命に頑張る職員・先生たちの様子やその思いや願いについて、お話をさせていただきました。ところでここ数年「**不適切保育**」というキーワードで、幼児教育現場の一部で実際にあった不祥事について、多くの報道がされています。業界の一部にある(あった)不適切な保育は、もちろんあつてはならないことです。しかし「**不適切だ!**」と糾弾する前に、実は社会全体がこの保育の世界を大切にしてこなかった現実があります。

待機児童対策として量の拡大を目指した新しい保育制度は、実は国の経済対策としても実施されてきた側面があります。それは子育てをする母親も早くに我が子を園に預けて働くことで、働き手として社会に戻って欲しいという意図。そこに乳幼児の母親と一緒にいたいという思い、「**子ども**の**最善の利益**」は蔑ろにされてきました。保育利用時間の長時間化と共に、情緒不安定な子ども達が日本全国の保育現場で爆発的に増えています。それに付随し、特別な支援を必要とする子ども達の急増は学校教育の現場でも大問題となっています。

11時間を超える超長時間保育が当たり前となった保育業界。それを限られた人数の保育者たちが決して高くない賃金で支えていくことは、そろそろ限界を迎えています。

最近世間から厳しい眼差しを向けられがちな幼児教育の世界。しかし実はその社会の雰囲気によって、現場の一生懸命な多くの保育者たちは、深く深く傷ついていることを知って欲しいのです。

日々頑張る保育者たちと話をしていると、その悔しさ、やるせなさ、切なさを感じている人が本当に多いです。この善良な人たちが社会からいなくなったら、いったいどうなってしまうのでしょうか。皆が真剣に考えて欲しいと思います。世の中にはたくさんのお仕事があります。が、あえてこの道を自分の意志で選び、邁進する人たちは、特別な存在だと私は思います。どうか皆さん、彼女彼らにエールと称賛を折に触れて贈ってください。ね！

告知 『海禅寺ヨガタイム』

何度かお知らせしていますが、海禅寺で月一回のペースでヨガ教室を行っています。未経験者の方も大歓迎です。また単発の参加でも大丈夫です。ご希望の方は、左記QRコードかお電話でお申込み下さい。基本的にエアコンのある本堂で行いますが、冬季は床暖房のある会議室で実施しています。

指導… 山浦佳子 先生
日程… 10月13日(日) 通常ヨガ
11月2日(土) 通常ヨガ

※12月以降の予定は、QRコード内のフォーム、またはInstagramで公開いたします。

指導… 各回午後2時半～(約90分間)
費用… 1回1500円
会場… 本堂または会議室
定員… 15名
申込… 必須です

参加申し込みQRコード↓
電話での申し込みも受け付けています



去る8月12日に行われた海禅寺恒例の施餓鬼会。法要前の法話の時間では、私、副住職が『私と仏道』というタイトルで、これまでの歩みをお話

させていただきました。自分なりに準備を整えて臨んだはずでしたが、やはり「法話」とは程遠い、「ずっこけ求道物語」に終始してしまいました…。皆さまの大切なお時間をお預かりしたのにも関わらず、お耳汚し失礼いたしました。

ところでその中で、私が若い頃挑んだ修験道修行のお話をいたしました。ある山深い行場で、同行の修行者の方の一人が、高所から谷底へ転落してしまつたという重大な話題にいたしました。その方がその後どうなったかをお伝えせずに話を終えてしまいましたので、この場をお借りして補足いたします。やはり大変な大怪我を負われましたが、その後一命をとりとめ、無事社会復帰までされたそうです。ご本人から大変に丁寧なお手紙を頂戴した時には、心底安堵いたしました。

今改めて思い返すと、あの出来事は私にとっても大きな転機となりました。当時、若さと体力に恵まれていた私は、完全に自分を過信し、慢心の中にいました。端的に言うと、山を、そして大自然を甘く見ていました。それがあの一大事以降、お山と大自然の存在に、ある種の畏怖の念を抱いています。人は自分の価値判断を通じて物事を見てしまうと今回冒頭で触れましたが、おごり高ぶる慢心は、無意識のうちに人を傷つけ、そして自分をもむしばむ力を持っています。喉元過ぎて熱さを忘れかけていたこの気持ち。今回の機会に改めて思い起こすことができました。有り難うございました。